

マリン交流事業の取り組みについて
—県民と漁業者の交流による漁業の活性化—

平塚市漁業協同組合海業研究会
会員 後藤 武

1. 地域の概要

平塚市漁業協同組合は、相模湾のほぼ中央に位置する。相模川の河口域の右岸に第2種漁港である平塚漁港があり、河口の西側に新港が建設されている。現在、正組合員57名、準組合員36名、合計93名の組合員である。

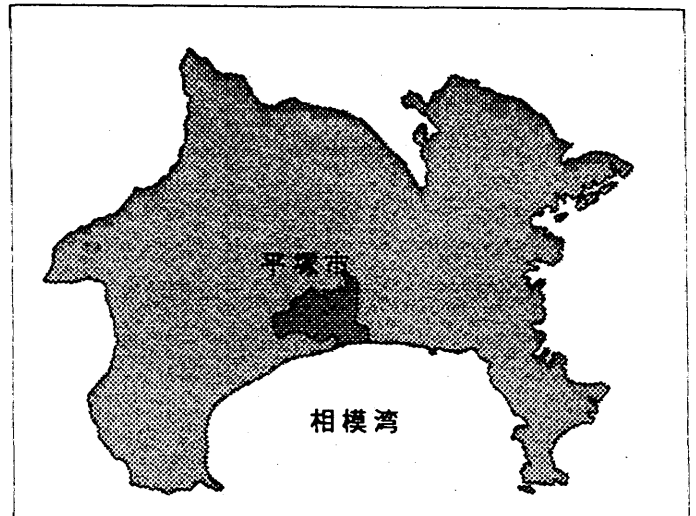


図1 位置図

2. 漁業の概要

漁業の概要は、平塚漁港を根拠地として、定置漁業権に基づく大型定置網漁業3ヶ統、しらす船曳網漁業3ヶ統、地曳網漁業1ヶ統、固定式刺網漁業4ヶ統、

その他、一本釣り漁業、曳き縄釣り漁業、延縄漁業等が営まれている。しかし、多くの漁業者が遊漁船業との兼業である。

大正時代から昭和30年代中頃までは、沖合を利用した漁船漁業が発達し、「須賀のカツオ一本釣り」として広く県内外にその名を知られていた。しかし、40年代前半には、資源の減少や社会情勢の変化から、中型漁船漁業の経営が困難となり、船主や従事者は他業種へ転換をせざるを得ない状況となった。この時の転換業種の中心が遊漁船業である。

3. 実践活動課題選定の動機

平塚新港が平成元年度に着工され、平成11年度末にほぼ完成予定である。新港建設を契機として、これからの地先漁業の在り方や海の利用について「みんなで考え、行動を起こさなければ」との声が高まり、有志で「海業」について勉強する機会を設けようと漁協に働きかけたところ、漁協の全面支援を得て青年組合員22名で構成する「海業研究会」を平成2年に発足した。

海業研究会は、行政機関や研究機関の職員等を招いての講演会や、漁港や相模川河口部の清掃を行うなどの活動したが、平成2年度の重点活動は「サーフ'90関連事業」への協力であった。「サーフ'90」は、平成2年度に「人と海の共生」を目指して、相模湾各所で開催された総合イベントですが、平塚市漁協は、「サーフ'90平塚市実行委員会」の構成員である上、関連事業として行われる「地域イベント」を今後の海業の展開方向の一つとして捉えていた。

地域イベントとして「体験漁業」と「遊覧フィッシング」を行った。「体験漁業」は、公募した参加者を船で漁場に案内し、定置網の網起こしを紹介した後、漁師鍋やバーベキューで地魚を食べてもらう企画で、漁業の実態や地魚の味を知ってもらおうというものであった。「遊覧フィッシング」では、平塚を起点に二宮、江の島間をクルージングし、海上からの景色を楽しんでもらった後、釣りを楽しんでもらうことにより、海への関心を高めようと考えた。

これらのイベント参加者からは、「自分たちが住んでいる平塚の海で、色々な魚が採れる」ことの驚きや、海に浮かぶゴミを見て「魚のためにも、漁師さんたちのためにも、自分たちのためにも海を汚さないようにしなければいけない」等の感想が寄せられた。

このサーフ'90の体験から、地域の「漁業と魚」「海の利用」についてPRしていこうとの機運が高まり、翌年、翌々年には研究会独自で「竜宮祭さかなまつり」を行った。

4. 実践活動状況及び成果

新港の建設が進む中、海岸域、特にレクリエーション活動等の拠点となっている湘南ひらつかビーチパークとの連携強化の必要性が認識されたが、連携強化は一朝一夕に進むものではないため、サーフ'90の経験を生かしたイベントを数多く開催し、地域住民を巻き込んでいこうと考えた。

マリン交流事業は、漁業をはじめとする平塚海岸全体の活性化に向けて、平成9年度に平塚市漁協、湘南ひらつかビーチクラブ、地元小学校が連携して立ち上げた。平成10年度には、海岸地域の公民館3館や様々な市民・団体が加わり、地元住民を対象としたイベントを実施している。連携している団体は表1のとおり。

水産関係団体としては、魚商業組合、加工組合、魚市場がある。市民団体では、湘南ひらつかビーチクラブ、日本サーフィン連盟湘南西支部等があり、この他、地域の公民館が主催している料理教室等に参加してくれた地域の女性たちが協力してくれている。湘南ひらつかビーチクラブは、サーフ'90の会場にもなった湘南ひらつかビーチパークを利用している市民の自主運営組織である。ライフセーバー等は、海岸での種苗放流会やフィッシングパーティー等に協力してもらっていますが、「星を見る会」のように、一見、何の関わりもない団体も含め、海岸域の利用する者同士として交流している。

実際に行っている事業も年々増え、主なものは表2の9種類の企画でである。

体験漁業は、地元の幼稚園、小学校等と共同で、漁船への体験乗船会や地曳網を実施している。明日の地元漁業のサポーターづくりと位置づけている。

海の世界教室は、一般の人たちが陸上では気づかない海の世界保全を考える機会を提供している。遊漁船を使って潮目のゴミ拾い、流れ藻や海鳥の観察を行っている。私たちも「海の世界保全は森林づくりから」を合い言葉に、水源の山に植林を行った。

フィッシング&クルーズは、子供や女性等これまで船釣りに縁の無かった人を対象とした釣り教室と、漁業の紹介や自然観察を併せて実施していて、遊漁船業の新しい顧客の開拓と、漁業や海に対する関心を高めることを目指している。

その他にシラス干し体験、地魚を使ったフィッシングパーティー等々、この活動を通して、地元の漁獲物や漁業、釣り船に対する地元のファンが着実に増えている。市民による海岸や漁港の清掃、稚魚放流募金へのカンパ、航路や漁場でのサーフィンのルール作り等

の活動も定着した。

平成10年度には、延べ18回のイベントに約2,000名の参加があり、平成11年度(12月末現在)も25回で2,150名の参加があった。イベント開催回数の増加に伴い、参加者数も着実に増え、「常連さん」の定着とともに新たな市民の参加も多くなっている。体験漁業の地曳網を除けば、一つ一つのイベントの参加者は多くないが、色々な企画を数多く開催することによって、地域住民や様々な団体との多様な交流が生まれた。

5. 今後の課題

マリン交流事業では、特定の個人やグループが主体となるのではなく、個々の漁業者や市民ができる事を自主的に行うことで成り立っている。このため、特定の組織を強化するのではなく、個々の意識を高めていく事が必要である。これまでのイベントは、事業の立ち上げから現在まで、研究会と漁協、市役所が連携して行っている。まだ、試行錯誤の段階ではあるが、これらのイベントの中から、フィッシング&クルーズのように事業化の感触をつかんでいるものもあり、漁協主体で運営する時期も近くまで来ている。しかし、企画を実施する上で細かい調整が必要で、漁業の実態をよく知った専従的なスタッフの養成も必要である。

新しい海業は、事業化への道が開けつつある。漁業を活用した海や海岸の楽しみ、海の利用に関するルール作りも進んでいる。これからも地域住民と一体になって、平塚の漁業と海を発展させていきたい。

表1 マリン交流事業の連携団体

○市内水産団体

- ・湘南ひらつか魚食普及協議会

(平塚魚商業協同組合、平塚水産加工組合、(株)平塚魚市場、平塚市漁業協同組合)

○市民団体

- ・湘南ひらつかビーチクラブ
- ・公民館活動参加者
- ・平塚市食生活改善推進団体(ママの会)
- ・日本サーフィン連盟湘南西支部
- ・平塚青年会議所
- ・アングラーズクラブ ライズ

○その他の団体

- ・秦野市森林組合
- ・平塚市歯科医師会
- ・(財)神奈川県栽培漁業協会

○行政機関等

- ・平塚市(みなと水産課、水政課、環境政策課、青少年室、交流親善室、農産課、健康課)
- ・教育機関(港小学校、港幼稚園、平塚ろう学校、平塚市博物館)
- ・神奈川県(環境農政部水産課、水産総合研究所、西湘地区行政センター、湘南地区農政事務所)

表2 マリン交流事業の主な企画

○体験漁業

地元の小学校や幼稚園と共同で体験乗船会や地引き網を実施。明日の地元漁業のサポーターづくりは地元の子供から育てることを目指している。また養護学校の生徒を対象とした乗船会も実施している。

○フィッシング&クルーズ

親子や婦人などこれまで沖釣りに縁の無かった人を対象にした新しい遊漁船事業の開拓を目指して、釣り教室に海の自然ウォッチングや体験漁業等のメニューを組み合わせ実施している。

○稚魚放流会

地元の人達にも種苗放流の大切さを知ってもらうため、ビーチパーク前の海岸でヒラメやタイの稚魚放流会を実施している。

○海の世界教室

市内の子供達を対象に陸上では気づかない海の環境保全を考える機会を提供するため、遊漁船を使って潮目のゴミ拾いや海の自然ウォッチングを実施している。

○親子でワイワイ地曳き網

個人参加型の地引き網の実施により、これまで団体でないと体験できなかった地曳き網をより身近に楽しんでもらうとともに、地元の海の豊かさを知ってもらう。

○海を守る植樹ツアー

「海の環境保全は森林づくりから」を合い言葉に、漁業者や海岸地域の市民が合同で山の植樹を実施している。

○フィッシングパーティー

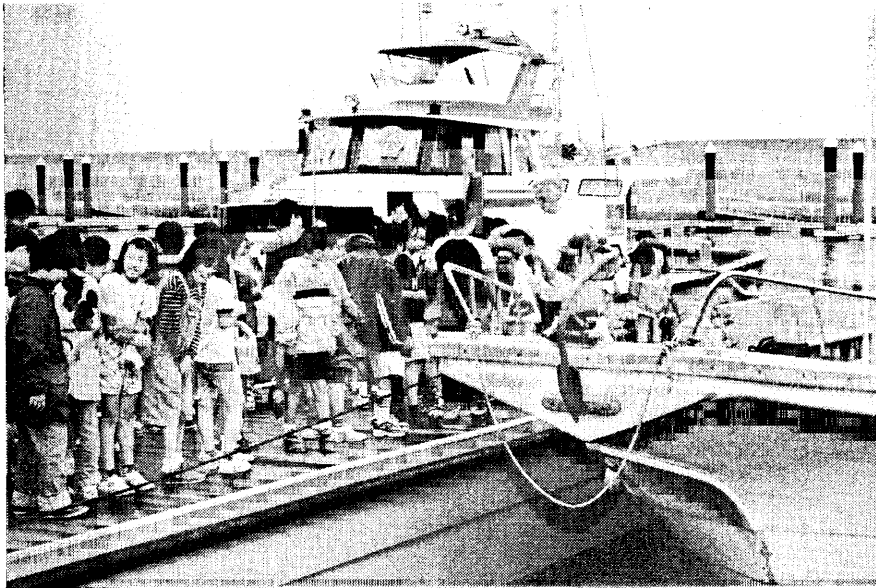
地元の漁獲物を使った漁業者による料理講習会と試食パーティー。ビーチパーク来場者に参加を呼びかけ会費制で実施している。地元で獲れる魚の紹介と美味しい食べ方を伝授し好評を得ている。補助スタッフも地域公民館での料理教室に参加した婦人達が担当し、回を重ねる毎にメニューも充実している。

○しらす干しづくり体験

漁業者の加工場でしらす干しづくりを体験する企画。出来立ての美味しさを味わってもらうとともに、地域からの固定客を育てることを目指している。

○河口サーフィンパトロール

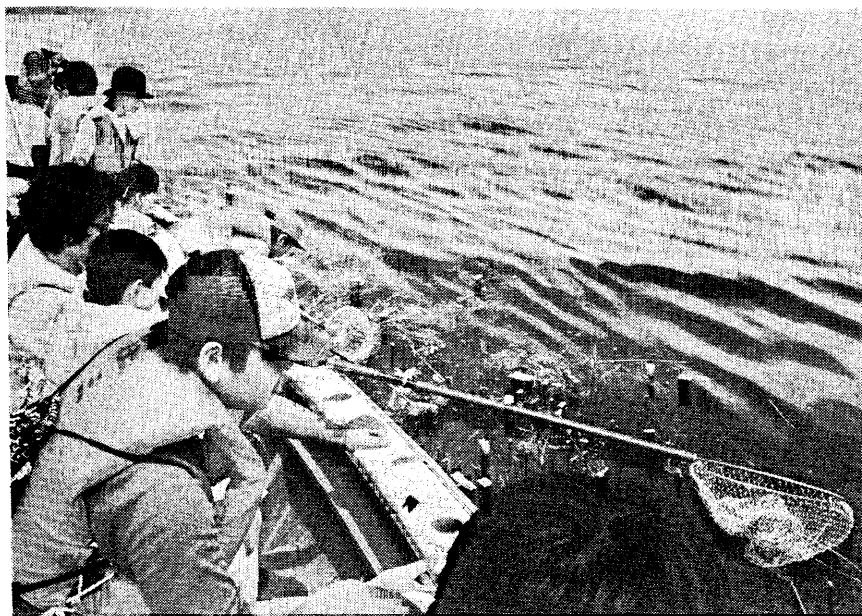
地元サーファーと漁業者の連携による海の利用に関するローカルルールづくりに向けた取り組み。サーフィン大会を通じて参加者に地域のルールを啓発するとともに、海岸や新港の清掃会も実施している。



体験漁業
(地曳網)



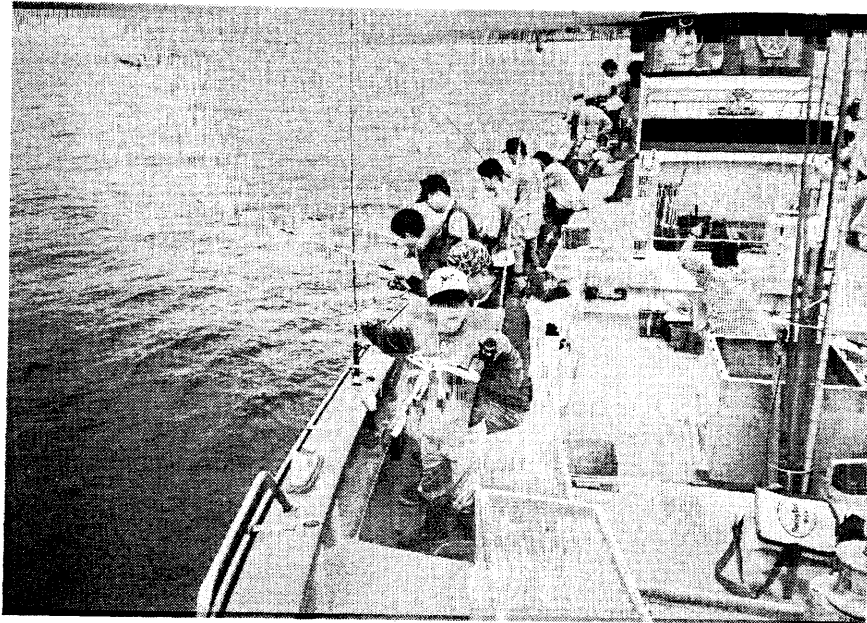
体験漁業
(体験乗船)



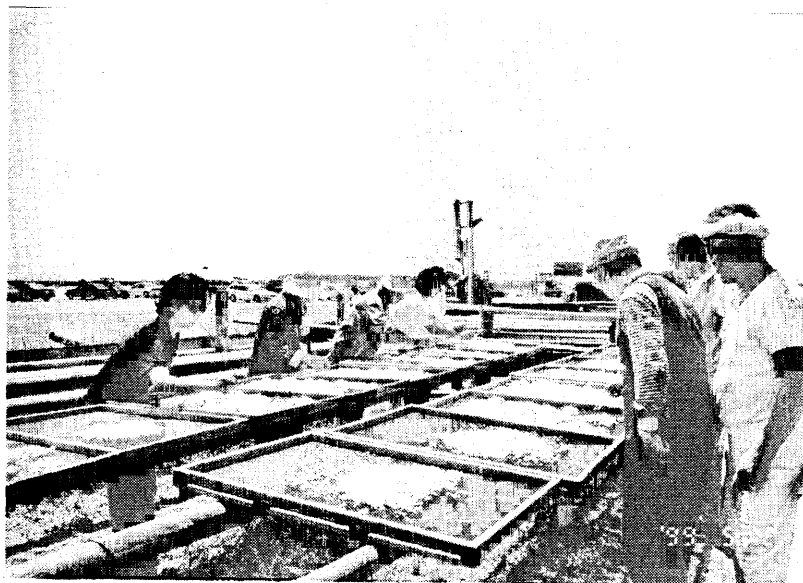
環境教室



植林



フィッシング&クルー



シラス干し体験



フィッシングパーティ



海岸清掃



稚魚放流会